

沿革

戦前 生麦仲通りにて洋品店を開業、地元のお客様他、子安公設市場や潮田方面へ行商も行う。また、夏季には、川崎の扇島海水浴場にて「夏の家」を開設、水着や浮き輪など、行楽洋品を扱う。

東京、神田方面の衣料品問屋街を中心に仕入れを行い、地元を中心に販売する。当時は、自転車とリヤカーで片道 25 km 程度を移動して仕入れを行った。多摩川の橋や品川御殿山付近の坂道が、自転車の難所であった。

戦後 鶴見市場に移転した。市場銀座商店街にて、当初は駅前（現在のレストラン、マルカート付近）に店を構える。昭和 26 年に有限会社として正式に登記を行うと同時に現在の所在地（市場上町 1-6）に移店した。昭和 30 年代には水冷式の店舗用大型クーラーも設置したモダンな店舗であった。

昭和 60 年に現在の建物に改築し現在に至る